

スケジュール詳細

▼全体スケジュール

2023年7月20日(木)	募集締切
7月28日(金)	受講可否通知
8月8日(火)	ガイダンス/チームビルディング 10時～18時
それぞれのプロジェクトによって活動日程が異なります。	IKIGAIマイプロジェクト(内的コース)
	考動プロジェクト(外的コース)
9月19日(火)	内外コース合同中間発表(取組み内容の報告、合同ワーク) 10時～15時
11月25日(土)	内外コース合同成果発表会 13時～18時

※全体スケジュールに記載の日は原則参加ください。

▼IKIGAIマイプロジェクト ※GWS:グループでのワークショップ、FW:学外でのフィールドワーク

2023年8月8日(火)以降	GWS:マイプロジェクト1 →マイプロシートの作成と発表/各自の価値観を深掘しよう
8月～9月	全体講義 →IKIGAI企業・働きがいについて/インタビュースキルを学ぶ 相互インタビュー実習
	FW:経営者にインタビュー →いきがい企業インタビュー実施/経営者の価値観や生き方に触れよう
	GWS:マイプロジェクト-2 →インタビュー振り返り/気づきや学びの共有/各自のキャリア観を深掘りしよう
9月19日(火)	内外コース合同中間発表(取組み内容の報告、合同ワーク) 10時～15時
10月～11月	GWS:マイプロジェクト-3 →経営者との対話振り返り/気づきや学びを共有/各自のキャリア観やいきがいを探ろう
	FW:交流BBQイベント →全国のIKIGAI経営者や他大学の学生が集まるBBQイベントで未来につながる仲間を見つけよう
11月25日(土)	内外コース合同成果発表会 13時～18時
12月	FW:学外発表@フェス →学外でガクチカとしてアピールしようIKIGAI WORKS主催「働き方生き方フェス2023」で発表(12月開催予定)

▼考動プロジェクト

各地域によって、スケジュールが異なるため、詳細は別添資料をご確認ください。

考動プロジェクト 丹波市での取り組み課題案①

課題名：食と農と人、接点を探索する

<課題オーナー：羊探索 鈴江>

現在、目の前の食べ物がどこで生産され、どのようなプロセスを経ているかは分からないことがほとんどである。都市生活と食料生産現場との距離は次第に遠ざかっており、この状況に違和感を覚える人は多い。一方で兵庫県丹波市では風景の一部に農業があり、誰でも地域で生産された季節ごとの農産物を食べることができる。こうした大きなギャップを小さくし、新しい関係のあり方を考えたい。このことから、丹波市内での体験を通じて食と農と人の関係についてそれぞれの参加者が考えられるような魅力ある体験プログラムの提案を目的とする。

内容イメージ（実施する内容の例（チーム内の意見交換の中で適宜変更））

- ・丹波市内の農業者、事業者に訪問、調査
体験や意見交換を通じて地域特性、地域や消費者との関係を調査する。
- ・調査結果の分析
上記の調査結果を持ち寄り分析し、地域のアピールポイント、都市とのより良い関係性を探る。
- ・体験プログラムの作成／最終報告会
体験プログラムを設計し、時期や費用、今後の展開も含めて提案を行う。

プログラム詳細

実施場所：兵庫県丹波市内（青垣町佐治を拠点とする）

日 程：①8月21日～23日

②9月6日～8日

③10月（10月については要調整）

対 象：本学学部学生・大学院生

メンバー：学生1チーム

鈴江（現地CD）、（協力：丹波市内農業者、事業者）、ファシリテーター数名

定 員：3人

参 加 費：食事代のみ実費負担

協力団体：羊探索 鈴江、一般社団法人 Work Design Lab

考動プロジェクト 丹波市での取り組み課題②

課題名：空き家問題の解決・利活用を通して集落「佐治」をデザインする

<課題オーナー：NPO 法人佐治倶楽部>

佐治倶楽部は地域の古民家の管理を行うNPO法人です。現在は5件の物件を管理しながら、古民家や地域の特性を活かしたまちづくりを実践しています。古民家の貸し出し事業や宿泊事業を行っているが、利用が少ないという課題があります。また、地域の空き家を直していくよりも、利用されない空き家や朽ちて解体する空き家がまだまだ多くあります。佐治は宿場町で魅力的な町並みが残っていますが、家が減り、景観にそぐわない家が建つことで、その魅力的な風景が失われてしまいます。それを守るために佐治全体のデザインを考えてください。

内容イメージ（実施する内容の例（チーム内の意見交換の中で適宜変更））

- ・ 佐治倶楽部の活動分析とその実態と集落の住民評価分析
- ・ 佐治の有識者、協力団体への調査結果報告
- ・ 佐治モデルの空き家活用方法の提案/佐治倶楽部の業務の改善や新しい事業の提案

プログラム詳細

実施場所：兵庫県丹波市青垣町佐治

日程：①8月25日～27日(26日は佐治倶楽部が主催するマルシェ「サジイチ」へ参加)
②9月4～6日
③10～11月に現地での作業を1泊2日程度で実施予定。

対象：本学学部学生・大学院生

メンバー：学生2チーム(各2～3人程度)

植地（現地CD）、ファシリテーター、メンター教員

定員：6人

参加費：食事代のみ実費負担

協力団体：一般社団法人 Be、丹波 Web Creation、一般社団法人 Work Design Lab

考動プロジェクト 河内長野市南花台での取り組み課題

課題名：地域内の情報共有の仕組みについて考える

<課題オーナー：南花台自治会元会長 高橋さん>

若年層に現在のアナログな自治会の情報共有システム（回覧板等）があっておらず、経費もかかっており、南花台では、情報発信についてデジタル化を進めている。今年度「いちのいち」(<https://ichi-no-ichi.com/>)を一部エリアで試験的に導入予定である。実施前と実施後でどのような効果があるのか、また、システムの課題調査、地域の実情にあった運用提案や地域内の情報共有の仕組みについての提案を行う。

内容イメージ（実施する内容の例（チーム内の意見交換の中で適宜変更））

- ・運用実態についての調査
 - 「いちのいち」についての調査や地域内での運用の実態を掴むようなフィールドワーク、アンケート等の企画・実施
- ・調査結果の分析／中間発表
 - 上記の調査結果を持ち寄り分析・考察を行う
- ・運用方法などの提案／最終報告会
 - 調査・分析をメンバー間での議論や専門家との意見交換を踏まえた上で、内容をよりブラッシュアップさせ、地域に対しての提案報告会を行う

プログラム詳細

実施場所：大阪府河内長野市南花台

日 程：①8月21日～23日

②9月11日～12日

③10月の活動日については要調整

対 象：本学学部学生・大学院生

メンバー：学生1チーム、関谷（現地CD）、ファシリテーター、メンター教員

定 員：5人

参 加 費：食事代のみ実費負担

協力団体：南花台自治会、一般社団法人 Work Design Lab

考動プロジェクト 大野市での取り組み①

課題名：繊維産業とまちづくり

＜課題オーナー：株式会社ラコム織田氏＞

福井県は、繊維業が盛んな地域である。特に、生地の産地であることから、原材料の調達から縫製まで行える「福井県産の服が作れる」という極めて稀な地域である。現在の課題は、工業分業化が進んだことによる組織と産業の縦割り化。その結果、高い技術と産地の特性がありながら、生産者が自分達の仕事や産業に誇りを持っておらず、地場産業としての魅力が地域に伝わっていないというのが実態である。地場産業として、地域の教育やまちづくりに貢献する方法を考えたい。

内容イメージ（実施する内容の例（チーム内の意見交換の中で適宜変更））

実習例 1.) ハイブランドの服を分解してみよう。

株式会社ラコムで作っているギャルソンの服をパーツごとに分解してみる実験。原材料費、縫製費、ブランド費など、内訳を分析してできるのもパーツごとの価格をはじける縫製業だからこその実験。

実習例 2.) サステナブルファッションを学んで、地域で販売。

余った布や、高い縫製技術を地域に還元する方法を模索する。市内のものづくり拠点にてTシャツやワッペンを製作し、イベントやワークショップを実施し販売する。地場産業がまちに関わるためのきっかけや情報発信を行い、シビックプライドを高める取り組みを実施。

プログラム詳細

実施場所：福井県大野市内（一部勝山市）

日 程：①8月28日～9月1日

②9月中旬

③10月下旬（9～10月の予定は参加者と調整）

対 象：本学学部学生・大学院生

メンバー：学生1チーム、三浦（現地CD）、ファシリテーター、メンター教員

定 員：3人

参加費：食事代のみ実費負担

協力団体：横町編集部、each base（勝山市のものづくり団体）、
一般社団法人 Work Design Lab

考動プロジェクト 大野市での取り組み②

課題名：宿泊業と農業の協働による食と農のまちづくり

＜課題オーナー：合同会社荒島社 桑原氏＞

地域外と地域をつなぐ宿泊業として、大野で働く魅力を高めることは観光のそれと同等の価値がある。来訪者と“観光”だけでなく“働くこと”の間の存在になれるかは今後の大きな課題である。

広大な農地が広がる大野市。人口減や仕事の多様化、農耕機の高騰・更新などを理由に担い手不足である農業。結果、農業集落の空き家、遊休農地の増加、地産地消サイクルの障害など地域課題と直結していることが多い。地域課題解決の糸口をつかむため、農業の現状をより多くの人に触れるきっかけをつくるため2つのテーマを設ける。まずは「大野の野菜を食べる」こと。大野の野菜・生産者を地域外へ繋ぐための新しい直売所のあり方の検討と開拓。2つ目は「農業を生業としている人に関わる」こと。就農体験で野菜づくりや土に触れることから始め、自然のサイクルに関わることが仕事であることを肌で感じてもらう。雪の多い大野では冬の閑散期の働き方が文化的にも新しい産業が生まれる起点ともなっておりその検討の価値もある。

内容イメージ（実施する内容の例（チーム内の意見交換の中で適宜変更））

実習例 1.)直売所の開拓に挑戦。

学園祭や食堂など、大阪をはじめ大学内で大野の野菜を売ったり、調理して販売する機会について模索してもらう。

実習例 2.) 農業の働き方を考える。

自然を相手にする農家にとって、雪の多い大野の冬の間は閑散期をむかえる。他地域への営業や、加工品の生産、副業など冬の仕事を考えたい。

プログラム詳細

実施場所：福井県大野市内

日 程：①8月21日～8月25日

②9月中旬 ③10月下旬（9～10月の予定は参加者と調整）

対 象：本学学部学生・大学院生

メンバー：学生1チーム、三浦（現地CD）、ファシリテーター、メンター教員

定 員：3人

参加費：食事代のみ実費負担

協力団体：横町編集部、荒島社、上田農園、純ちゃん農園、一般社団法人 Work Design Lab